

はじめに

令和5年度大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント委員会委員長 山 倉 健 嗣

令和5年度のFD活動報告書をお届けいたします。報告書の作成にご協力をいただいた教職員の皆様に心から感謝申し上げます。本報告書は令和5年度のFD活動をまとめたものです。全学及び学部、研究科のFD活動、FD研修から構成されており、本学のFDに対する取り組みを知ることができます。

令和5年度の授業は対面8割、オンライン2割で授業が行われました。令和4年度と同様に、緊急事態宣言の発令に影響されることなく、教職員、学生の協力もあり、授業は今年度の経験の蓄積もあり、順調に進行しました。令和7年度より対面授業に全面移行となりますが、対面授業とオンデマンド授業が併存した経験は生かされることになるでしょう。

学生の授業評価は昨年同様、教員の授業方法・内容の改善を目的とし、「授業改善のためのアンケート」として位置づけられています。回収率を向上するという目標を立て、今年度も昨年同様、Webで授業評価を実施しました。教員・教育支援センターの度重なる督促などの努力を行ったのですが、今年度も40%を切る結果となりました。回収率向上は今後の重要課題の一つであり、向上のための新たな施策を講じていかなければと考えます。令和5年度の授業評価も昨年度のアンケート項目を継続し、経年変化がわかるようにしています。さらに、課題に対する教員からのフィードバックに関する項目を1問追加しました。この問いについて、学生数や授業形態ごとの違いがあることもわかりました。全体としての学生の授業評価の詳細は本報告書をご覧ください。学部・学科・専攻ごとの違いを知ることができますし、授業時間以外の学修時間は少ないという従来からの課題は残念ながら残っています。

令和5年度もFD委員会主催による、全学のFD講演会を前期後期の2回無事に昨年同様オンラインで開催することができました。前期は7月28日に「アフターコロナのICT教育—responを活用して全学生参加型の双方向授業をつくる—」というテーマで行いました。前半は本学での活用事例を八城薫教授、山本真知子准教授、宮崎美智子准教授、竹部成崇専任講師に報告いただき、後半は株式会社レスポンス 代表取締役社長 森田真基氏にご講演いただきました。本学の教員のresponの授業形態別の具体的な活用事例を学ぶことができた、森田社長からのプレゼンによりresponの多様な機能についても知ることができたなどの感想が寄せられました。後期は12月15日に株式会社野村総合研究所 未来創発センター 生活DX・データ研究室室長 塩崎潤一氏を講師としてお迎えし、「ChatGPTとビジネス・大学教育研究～AIの発展に伴う課題と対応～」というテーマで行いました。近年話題となっている生成AIの現状を俯瞰しつつ、その利点や可能性とともに問題点も指摘した、刺激的な講演でした。今後テーマの選択や開催日の設定については十分に配慮した運営を行っていきます。

各学科・専攻の授業担当者懇談会は対面あるいはオンラインで行われました。例年と同じく参加した非常勤講師の先生より、授業の改善への多くの示唆が与えられたとの報告をいただいています。

令和6年度もアフターコロナの状況で、FD 活動の必要性はますます高まっていくでしょう。令和5年度の経験・実績を踏まえ、本学の教育内容・方法の改善を引き続き図っていきます。